

## 関東地方会選出理事候補者としての抱負

武林亨（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学）



理事候補としての所信を以下に述べさせていただきます。

### 1. 働き方変革の時代に普遍的な価値としての健康を護るために。

2年前に理事候補として選出いただき、2017年の東京での総会から、川上理事長の下で業務執行理事（総務担当）として学会運営を担ってまいりました。その間にも社会の変化は著しく、働き方改革は実行のフェーズに入っています。ここに産業医・産業保健機能の強化が挙げられていることは、働くことの基盤に健康があるとの観点で当然です。しかし、働く人や組織の自律性・多様性を支援しつつ、すべての人々の健康を護るという観点からは、これまで以上に慎重かつ多面的な議論を経て産業保健サービスの姿を形作っていく必要があります。多彩なステークホルダーの考え方を踏まえて専門性を発揮することのできる本学会の役割がより一層重要になっていると考えます。

印象的なできごとが、学会総会時の一般演題発表の活況です。企画運営委員会のご尽力とともに、各部会の努力によって専門性の確立が進み、その成果を発表する場に総会が位置づけられたことによって、開催場所に依らず、多くの演題発表が行われるようになりました。秋の全国協議会も同様に活気に溢れています。学会員による演題発表が活発で元気なことは、本学会がもっとも大切にすべき学問の進歩と人材の育成という両輪がしっかり回り出していることを映し出しており、その動きを確かなものとし、より魅力的で活気のあるものへと発展させることが、これからの最も重要な使命であると考えています。これからも理事会の一員として、財政的な課題を克服しながら、質・量ともに充実した「学術と実践が会おう場づくり」を推し進めるよう力を尽くします。

### 2. 終わりのない産業衛生課題の解決へ向けて。

新興・再興感染症が世界の人々の健康課題であり続けるように、産業衛生の課題も、年代や場所を超え、時には姿を変えて現れ続けています。次々と明らかになる化学物質による発がん事例は、国内においてさえ職業発がんが終わっていない課題であることを物語っていますし、アジアに目を転じれば、産業の移転による各国の近代化により、古くて新しい産業衛生課題が其処此処に認められます。持続可能な開発のための2030アジェンダ「持続可能な開発目標（SDGs）」では、2030年までの17のグローバル目標のうち、「すべての人に健康と福祉を（目標3）」、「働きがいも経済成長も（目標8）」と、本学会に深く関わる目標が設定されています。この先にも、働き方の変化に伴って多くの新しい課題が現れてくるはずですが。

私たちには、長きにわたる課題解決の経験と知識の蓄積がありますが、許容濃度への訴訟問題からは、社会の側の意識や価値観の変化を感じられずにはいられません。価値観から利用できる技術までが大きく変わる現在においては、時代の一步先で、新たな実践を生み出す努力が必要です。データやAIの時代だからこそ、現場に根ざした取り組みや、行動科学、コミュニケーションを重視したアプローチが求められています。そのため、職種による専門性や研究と実践の枠組みを超えて融合し、新しい解決策が生み出されるような「チーム産業保健」の実現を、学会として後押しして行く所存です。実践現場と教育研究現場の若手同士が、課題解決について一緒に学べる場を学会に設けるとともに、幅広いステークホルダーとの対話を継続し、本学会の成果に基づく政策提言や情報発信を行っていくことは、学会として一層積極的に取り組むべきことと考えています。

略歴：慶應義塾大学医学部卒（1989年）、2005年より現職（教授）。

学会活動歴：会員（1989年～）、評議員・代議員（1999年～）、関東地方会幹事（2009年～2016年）、許容濃度等に関する委員会（委員2005年～、委員長2014年～）、産業衛生専門医（2014年）、理事（2017年～）